

講義名	対)19～日本語総合 A /15～日本語基礎 【留学生科目】					授業形態	
担当教員	尾崎 美千代	開講期・曜日・時限		前期 火曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング	

主題と概要

この授業は、日本語のレベルで言うと、いわゆる中級レベルを想定しています。学習時間で言うのだいたい1450～600時間、期間では9か月～1年ぐらい日本語を勉強している学生で、日本語能力試験のN2～N3程度です。前半は、本文に出てくる言葉や文法をしっかりと勉強した上で、楽しく読んでいきたいと思っています。そして、後半には、新聞記事や少し難しいN1レベルの文章も練習問題をしたりディスカッションをしながら読んでいきたいと思っています。

到達目標

もう少しアカデミックな言葉やむずかしい文型を覚えて、大学生として必要な新聞や専門の本が読めるようになることを目指します。

提出課題

3 課ごとの「小テスト」と期末試験を行います。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「小テスト」の返却時には、必ず復習の時間を取って、期末試験に備えます。

評価の基準

小テスト	40%
期末試験	60%

履修にあたっての注意・助言他

言葉の意味調べなどを、しっかりと予習をしておいてください。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.なし.				

その他

『日本語を楽しく読む本・中級』（（株）凡人社）抜粋
『日本文化を読む』（京都日本語教育センター）抜粋
『中上級学習者のための 日本語読解ワークブック』（アルク）抜粋

授業計画

1. 結語
2. 驚い農夫
3. 振り向き責
4. 「小テスト」のための復習
5. みんなって何人？
6. 握手（前半）
7. 握手（後半）
- 8.趣味
9. 「小テスト」のための復習
10. 地下鉄銀座線における大衆の呪い
11. マンガにおけるオノマトペの効果
12. 日本人の宗教観
13. 日本人の「すみません」
14. 総復習
15. 期末試験

授業形態（アクティブ・ラーニング）

☐ ア：PBL（課題解決型学習）	☐ イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】新しい言葉の意味調べ及び「読む前に」タスク	3 時間
【復習】宿題	1 時間

例：「あたらしい言葉」「新しい文法」の例文作り
練習問題チェック

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

アカデミックな日本語を習得し、専門的な文章が読めるようにします。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考